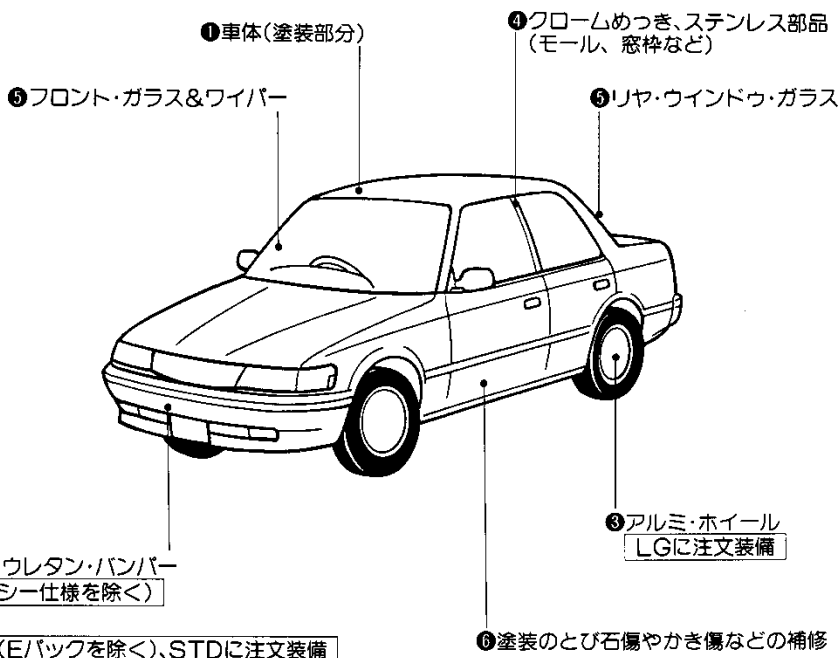


| | |
|-----------|----|
| 車の手入れ | 88 |
| 経済運転のコツ | 92 |
| 寒冷地での取り扱い | 93 |
| タイヤ・チェーン | 97 |

車の手入れ



②カラード(車体同色)・ウレタン・バンパー
LG、GR、GL(タクシー仕様を除く)

②ウレタン・バンパー
GLのタクシー仕様(Eバックを除く)、STDに注文装備

②ポリプロピレン・バンパー
GLのタクシー仕様、STD

車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車してください。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

①車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ぼたきで取ってください。

▶ 洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーを使用します。



ちよつと一言

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは洗剤として使用しないでください。

2. エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。



注意!

1. エンジン・ルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをするおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。とくに、濃彩色車やメタリック車はスリ傷がめだちやすくなります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

〈固形タイプ〉



- トヨタ・ゴールド
- トヨタ・シルバー
- トヨタ・メタリック

〈液体タイプ〉



- トヨタ・コーティングワックス(全塗装車用)
- トヨタ・コーティングワックス(ホワイト車用)
- トヨタ・フレッシュ

〈スプレータイプ〉



- トヨタ・スプレーワックス
- トヨタ・スプレーワックス(メタリック車用)

4. 前記のワックスを使用しても、よごれがひどく落ちにくいときは、次のトヨタ純正品をお使いください。

トヨタ・ホワイト&クリーン



トヨタ・スピーディ



注意!

これらのワックスの中には微粒なコンパウンド(みがき粉)がはいっていますので、よごれ落ちはよくなりますが、塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。また使用した布に色が付着することがあり、とくに濃彩色車ではめだちやすくなります。できる限り3.のワックスを使用してください。

②バンパーの手入れ

▶カラード(車体同色)・ウレタン・バンパー

1. 車体と同じく洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスかけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。



ちよつと一言

エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

▶ウレタン・バンパー

1. 車体と同じく洗車したあと次の専用ワックスでワックスがけをします。トヨタ純正バンパーワックス・ブラック（ウレタン・バンパー用）
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 塗装面用ワックスや泥が付着すると、ウレタンの目地にはいり白くなることがあります。この場合は、水で洗い落とした後、専用の黒色ワックスを塗布してください。



コンパウンド（みがき粉）入りワックスや、液状ワックスは使用しないでください。

ちょっと一言

▶ポリプロピレン・バンパー

1. 車体と同じく洗車します。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. ワックスがけをする場合は、トヨタ純正バンパーワックス・クリアーを使用してください。塗装用ワックスが付着すると、目地にはいり白くなることがあります。

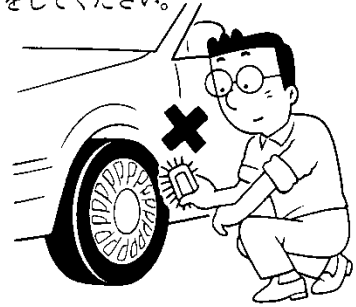


エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

ちょっと一言

③アルミ・ホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。
2. ワイヤー・ブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。



ちょっと一言

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたまにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド（みがき粉）入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

④クロームめっき、ステンレス部品（モール、窓枠など）の手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとワックスがけをします。
2. しみなどは、トヨタ純正ホワイト&クリーンを使用して除去してください。

⑤ ウィンドウ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラス・クリーナーで清掃してください。



- ガラス・クリーナー・コンパウンド
- ガラス・クリーナー・リキッド
- ガラス・クリーナー・エアゾールタイプ

なお、ワイパー・ゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



リヤ・ウィンドウ・ガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、湿った布で熱線にそって、軽くふいてください。
 ちよつと言 ガラス・クリーナーなどを使用すると、リヤ・ウィンドウ・デフォグガー(曇り取り)が作動しなくなるおそれがあります。

⑥ 塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチ・アップ・ペイントで補修してください。

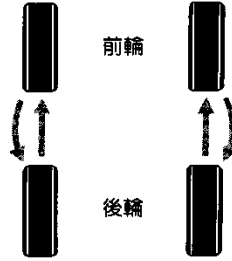


■ タイヤ位置交換

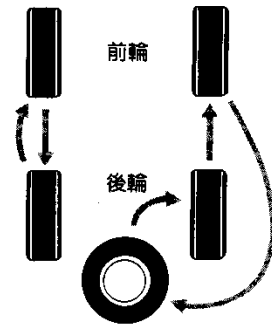
タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。

ラジアル・タイヤ装着車

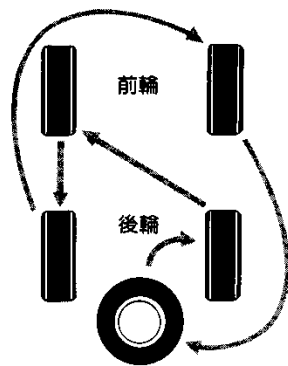
〈スペア・タイヤが応急用タイヤの場合〉



〈スペア・タイヤが標準タイヤの場合〉



バイヤス・タイヤ装着車



タイヤに付着したよごれを落とす場合は、トヨタ純正タイヤ・クリーナーで清掃してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

■リヤ・シートの取りはずし方

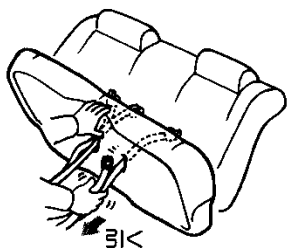
シート・カバーの交換などでリヤ・シートを取りはずすときは、次の要領で行ってください。

▶シート・クッションのはずし方

- 1.シート足元にあるレバー(2カ所)を引いたまま、シート前部を持ち上げます。



- 2.シート・クッションを手でささえながらシート・ベルトを下へ引き抜きます。



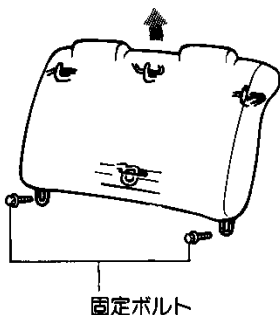
- 3.シート全体を手前に引きフックをはずします。



レバーを引かずにシートを持ち上げると、シート固定具を損傷するおそれがあります。
注意!

▶背もたれのはずし方

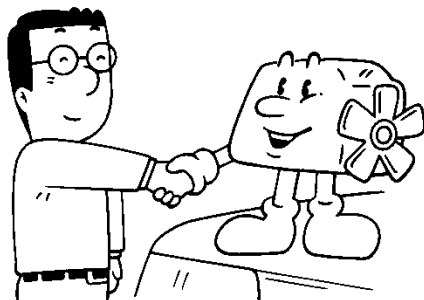
背もたれ裏側の固定ボルト(2本)をはずし、背もたれを持ち上げます。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

経済運転のコツ

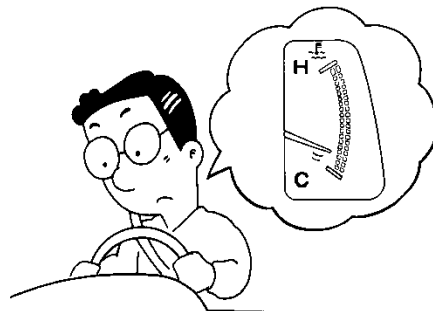
エンジンをいたわる気持ちで、
長持ちの秘訣



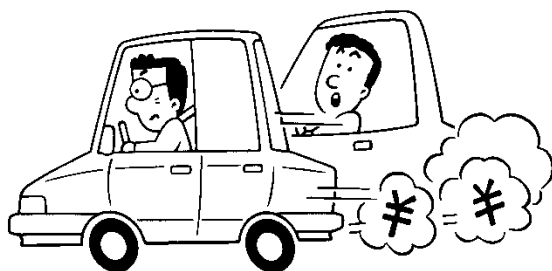
(新車時はとくに)ひかえめな運転をしてください。

暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針が動き出すまでにすればOKです。



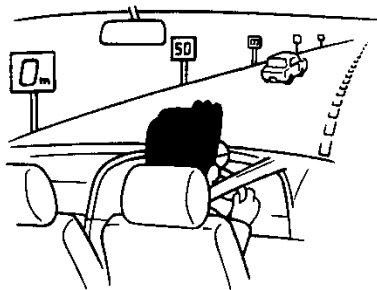
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



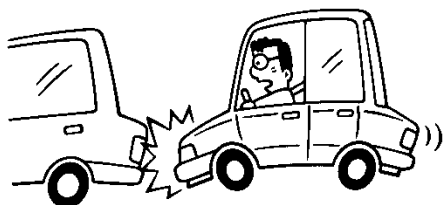
100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。

高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車間距離はゆったりとって、安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をとめない不経済



クラッチの適正で確実な操作は、車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行ってください。
中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることとなります。
2. 走行中は、クラッチ・ペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)・ギヤを使用してください。
セカンド(2速)・ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

寒冷地での取り扱い

この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

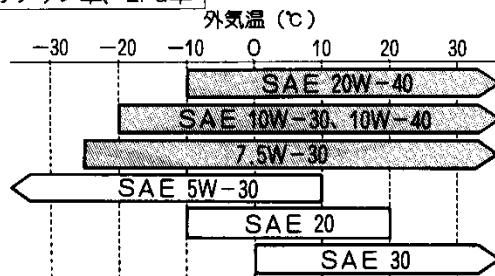
安全なウインター・ドライブをするために

1. タイヤ・チェーンの準備
2. スノー・タイヤの装着
スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換します。
3. 冷却水の濃度を点検してください。(寒冷時は、トヨタ純正ロング・ライフ・クーラントの濃度を50%にします。)
4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

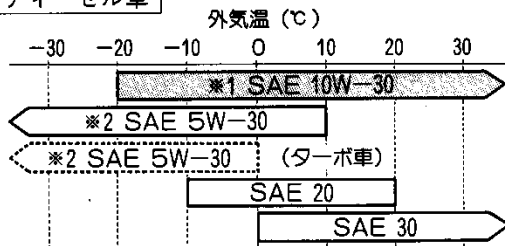
| 使用地域・季節 | 希釈割合 | 凍結温度 |
|---------|-----------|---------|
| 通 常 | 原液 1 に水 2 | -10°C |
| 寒冷地の冬期 | 原液 1 に水 1 | -20°C |
| 極寒冷地の冬期 | 原液のまま | -50°C以下 |

5. エンジン・オイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。

ガソリン車、LPG車



ディーゼル車



- *1 10W-30は年間を通して使用できます。
- *2 極寒時には5W-30をおすすめします。
ただし、外気温が10°C(ターボ車は0°C)以上になる時期には10W-30と交換してください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン



SAE20、30は使用できる温度範囲が狭いので注意してください。

ガソリン・エンジン、LPGには、7.5W-30、
ちよつと一言 10W-30、10W-40、20W-40の使用をおすすめします。

ディーゼル・エンジンには、10W-30の使用をおすすめします。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。

また、水分除去剤にはトヨタ純正ウォーターカットを使用してください

7. 凍結防止用ワイパー・ブレードの装着

必ずトヨタ純正品を使用してください。

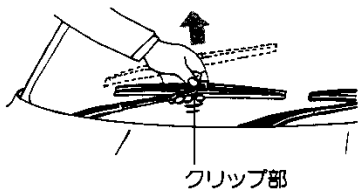
8. ワイパーの切り替え

GL(タクシー仕様)、STDを除く

フル・コンシールド式ワイパーは、フロント・ガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がりなくなりワイパー・モーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフル・コンシールド式からセミ・コンシールド式にしてご使用ください。

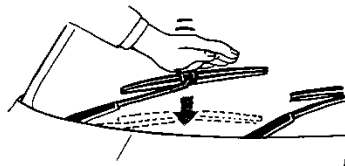
〈切り替え方法〉

1. フル・コンシールド式からセミ・コンシールド式にするときは、ワイパー・アームとブレードのクリップ部を持って引き上げます。



ブレードだけを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがありますので、必ずクリップ部を持って引き上げてくだ
ちよつと一言 さい。

2. セミ・コンシールド式からフル・コンシールド式にもどすときは、クリップ上部を手で押します。



ちよつと一言

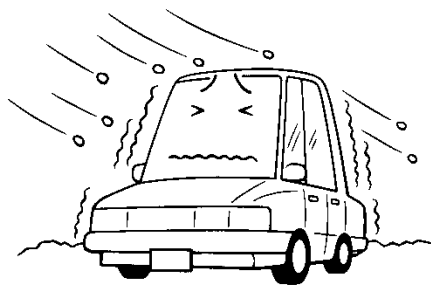
フル・コンシールドの状態ではワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると自動的にフル・コンシールドからセミ・コンシールドに切り替わる構造になっていますが雪のたまりかたによっては切り替わらないことがありますので上記の方法で切り替えてください。

走行前の点検(運行前点検)

寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロント・ウィンドウの氷雪を除去する際には、ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

エンジンの冷えすぎを防ぐには

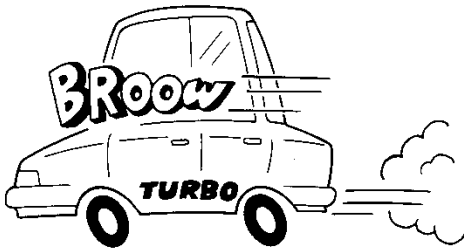


1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

ドアの凍結時の処置

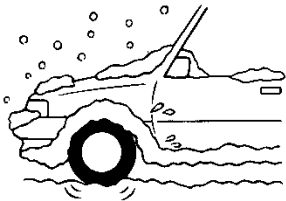
ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとうり回りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、あとで水分を十分ふき取ってください。また、トヨタ純正アイスリムーバー（凍結固着防止剤）を使用すればゴムの凍結を防ぎ、ドアを楽に開けることができます。

ターボ車はエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。



雪道走行時、フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



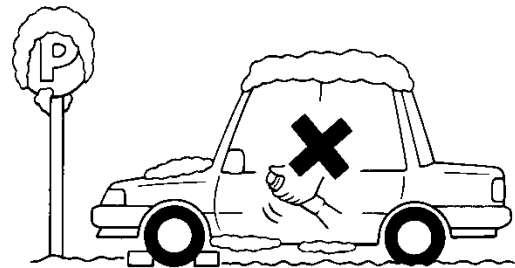
アクセル・ペダル凍結防止のため、靴に付着した雪を乗車時、よく落としてください。



凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング（駐車）・ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング（駐車）・ブレーキはかけないでください。

1. チェンジ・レバーの位置をマニュアル・トランスミッション車はロー（1速）またはリバース（後退）、オートマチック・トランスミッション車はP（駐車）にします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止め（搭載工具に含まれています）をしてください。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

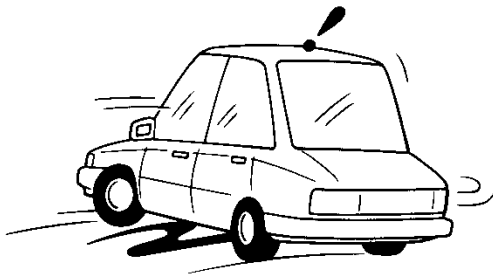
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキ・ペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、冰雪路面、凍結路面ではスリップに注意



ひかえめな速度で走り、冰雪路面、凍結路面では、スノー・タイヤ、タイヤ・チェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

ディーゼル車の使用燃料について

軽油は外気温が -10°C 以下になると凍結し、燃料配管の詰まりなどの不具合原因となります。

寒冷地へ行くときは、現地へ着くまでに残量を半分(燃料計目盛りの $\frac{1}{2}$ 以下)にして置き、現地に着いたら下表にしたがってできるだけ早く寒冷地用燃料を補給してください。



注意!

フェリーを利用して寒冷地へ行くときは、乗船前に燃料を半分にして置き、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

| 使用限界温度 | 使 用 燃 料 | | |
|---------------------------|---------------|---------------|------------------|
| | JIS 2号 軽 油 | JIS 3号 軽 油 | JIS 特 3 号 軽 油 |
| -10°C | ○ | △ | △ |
| * -14.5°C | ○ | ○ | △ |
| -19°C | △ | ○ | △ |
| * -22°C | △ | ○ | ○ |
| -25°C | △ | △ | ○ |

※は、それぞれの燃料を同じ割合に混合した場合を示します。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

タイヤ・チェーン



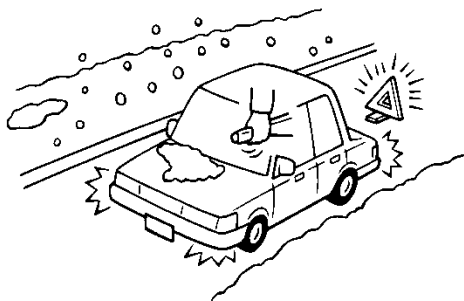
ちょっと一言

1. タイヤ・チェーンは後2輪に取りつけます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズにあったトヨタ純正品（下表指定サイズのもの）を使用してください。

| タイヤ・サイズ | 指定サイズ(JIS表示) |
|----------------------|--------------|
| 175SR14 185/70R14 | 4 5 1 9 1 |
| 6.45-14 | 4 5 1 9 1 A |

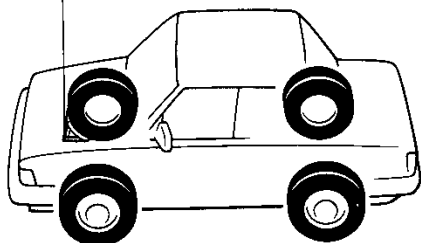
■取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。
3. パーキング（駐車）・ブレーキをかけます。

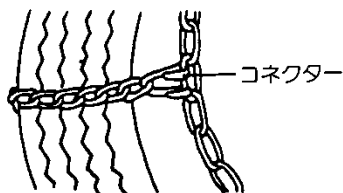


4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前側に、輪止め（搭載工具に含まれています）をします。

輪止め

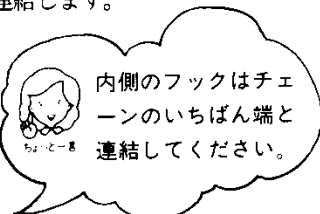


6. 後輪をジャッキ・アップします。☞74ページの「ジャッキ」を参照してください。
7. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。

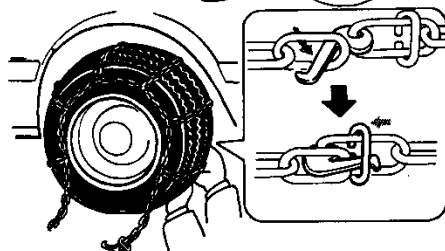


コネクター

8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。

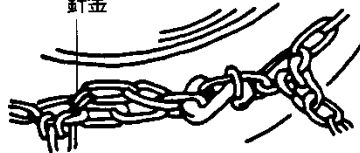


内側のフックはチェーンのいちばん端と連結してください。

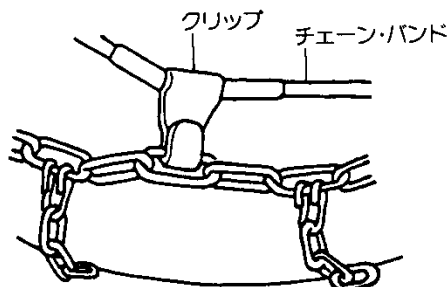


9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため下図のように針金で結びます。

針金



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



クリップ

チェーン・バンド

11. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。



ちよつと一言

1. 走行中タイヤ・チェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
2. ホイール・キャップ付き車の場合、ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する場合にはホイール・キャップをはずしてください。
3. アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがあります。

■取りはずし方

1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



注意!

1. タイヤ・チェーン購入時に一度装着して、長すぎる場合は、タイヤ・サイズにあうよう切ってください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合、雪道、凍結路は30km/h以下で走行してください。
3. 雪道、凍結路以外でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。